

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
105-30	中学校	数学	数学	第1学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
17 教出	数学 017-72	中学数学 1		

1 編修の基本方針

「学びのチカラで 人と社会を 未来へつなぐ」

自ら問い、考え続け、社会を創っていく子どもたちを育てたい。
そのような思いをこめて、私たちはこの教科書をつくりました。



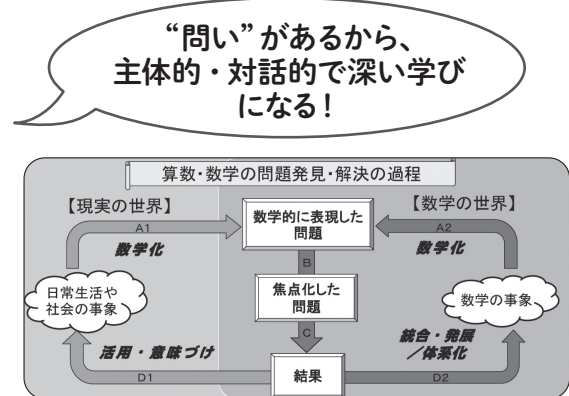
子どもたちが社会で活躍する頃には、急速なグローバル化や絶え間ない技術革新によって社会が激変し、将来の予測が困難な時代となっていることでしょう。その変化のひとつとして人工知能（AI）の進歩があげられますが、一方で、思考の目的を与えたり、目的のよさ、正しさ、美しさを判断したりできるのは、あくまでも人間であるとの再認識もなされています。このような時代では、様々な変化や未知の課題に積極的に向き合い、自立的・協働的に解決し、新たな価値を創り出していくことが求められます。

本書は、小学校算数の教科書とより一層の連携を図り、義務教育9年間で、未来を切り拓くために必要な資質・能力が子どもたち一人一人に身につくよう、次の基本方針のもと、編修にあたりました。

“問い”をもって、学び続ける子どもを育てる



▲ ②(はてな) → ①(なるほど) → ③(だったら) で進める
学びの過程



▲ 算数・数学の問題発見・解決の過程 (文部科学省)

特色

1

思考力・判断力・表現力の育成

“問い”をもち、見方・考え方を働かせて学び合う教科書

特色

2

学びに向かう力、人間性等の涵養

数学のよさを実感することで、社会へつながる教科書

特色

3

生きて働く知識・技能の習得

学びをつないで、確かな学力を育てる教科書

1 “問い”をもって学び合うから、考えが深まる！

はてな？ (学習過程で生じる生徒の疑問) から、主体的・対話的な学びを通して、なるほど！ (学習してわかったこと、解決のしかた) を見だし、さらに！？ (新たな疑問) へつながる構成にしています。

知識・技能と比べると顕在化しにくい思考力・判断力・表現力を、？ → ！ → ！？ を通して身につけられるようにしました。未来を創り出していくのは、“問い”をもつ力です。

▲p.146 ~ 148、155

2 見方・考え方を意識しながら繰り返し働かせることで、よさがわかる！

大切にしたい数学的な見方・考え方

●巻頭「大切にしたい数学的な見方・考え方」では、数学の学習で働かせたい見方・考え方を紹介しています。既習の具体的な事例をもとに紹介しているので、どのような見方・考え方があるかを知ることができます。また、すべての学年で掲載されているため、学年を超えて見方・考え方を振り返ることができます。

▲p.6 ~ 7

羅針盤マーク

●具体的な問題場面で生徒に働かせてほしい見方・考え方には、吹き出しに 羅針盤マーク (Compass Mark) をつけています。

●問題を解決するときに働かせた見方・考え方を振り返る ！ や、見方・考え方が働く典型的な学習場面には、汎用的な表現で見方・考え方 羅針盤マーク を提示しています。このことで、これから出会う未知の問題に対しても、自ら見方・考え方を働かせられるように意識づけを図っています。

▲p.190

▲p.76

3

❓を学びの原動力にして
❗を見いだす！

4 比例と反比例の利用

1 比例と反比例の利用

比例や反比例の問題を利用して、いろいろな問題を解決してみよう。

① キャンプは何回参加できるかな？

りくまんの家では、ペットボトルのキャンプ缶を集めて、リサイクルする活動をしています。集められたキャンプ缶は、石のような形に加工してキャンプの図章がスタンプされているキャンプの図章をもらうんだ。とすればよいでしょう。

1個のキャンプ缶から、キャンプの図章1枚がもらえるんだ。

りくまんは、図章を3枚集めた。この図章をもらうことができれば、キャンプに参加できるんだ。

りくまんは、図章を3枚集めた。この図章をもらうことができれば、キャンプに参加できるんだ。

りくまんは、図章を3枚集めた。この図章をもらうことができれば、キャンプに参加できるんだ。

学びのプロセス

② キャンプ参加の申し込みをしよう。

はしゃに聞かせるとなんか違う。比較的数量を y とし、 y が 10 だとすると x が 2 である。 $x = 10$ のときは y が 20 である。

③ キャンプ参加の申し込みをしよう。

はしゃに聞かせるとなんか違う。比較的数量を y とし、 y が 10 だとすると x が 2 である。 $x = 10$ のときは y が 20 である。

④ キャンプ参加の申し込みをしよう。

はしゃに聞かせるとなんか違う。比較的数量を y とし、 y が 10 だとすると x が 2 である。 $x = 10$ のときは y が 20 である。

⑤ キャンプ参加の申し込みをしよう。

はしゃに聞かせるとなんか違う。比較的数量を y とし、 y が 10 だとすると x が 2 である。 $x = 10$ のときは y が 20 である。

⑥ キャンプ参加の申し込みをしよう。

はしゃに聞かせるとなんか違う。比較的数量を y とし、 y が 10 だとすると x が 2 である。 $x = 10$ のときは y が 20 である。

原動力にしてだす！

4

章末

卷末

▲p.285

2

数学のよさを実感することで、社会へつながる教科書

1

章とびら

▲p.22

章とびら

▶p.70 ~ 71

実際に働いている人の話を聞いて、納得！

1 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得できる！

○章を学習する前に → 学習のまとめ

- 各章の入口には「○章を学習する前に」、出口には「学習のまとめ」を設けています。各章の学習の入口と出口で、基礎・基本を確認して既習内容と新たに学んだことをつなげます。

各章の入口で既習内容を確認できる！

1. 整数の見方 を学習

1 約数
12の約数をすべて求めてみよう。

2 倍数
下の数直線で、3の倍数に○をつけてみましょう。
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

① 1, 2, 3, 4, 6, 12
2 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

▲p.12

各章の出口で学んだことを確認できる！

1章 学習のまとめ

自然数、素数
もの個数を数えたり、ものの順番を数えたりするときに使われる数1, 2, 3, 4, 5, ……を「」という。
また、自然数をいくつかの自然数の積の形で表すとき、1とその数自身の積の形でしか表せない自然数を「」という。ただし、1は素数には入れない。
10以下の素数は、である。

▲p.21

例（例題）→ たしかめ → 問 → 補充問題

- 「例（例題）」と「問」の間に、「例（例題）」に類似した問題である「たしかめ」を設けています。学力に不安のある生徒でも自信を持ちながら、学習に取り組めるようにしています。
- 「補充問題」を巻末に用意し、「たしかめ」や「問」の類題に繰り返し取り組めるようにしています。家庭学習としても利用できます。

例2

5 両辺に同じ数をかけたり、両辺を同じ数でわったりする

例2 (1) $\frac{1}{3}x = 10$
左辺を x だけにするために、両辺に3をかけると、
 $\frac{1}{3}x \times 3 = 10 \times 3$
 $x = 30$

(2) $4x = -20$
左辺を x だけにするために、両辺を4でわると、
 $\frac{4x}{4} = \frac{-20}{4}$
 $x = -5$

たしかめ2 次の方程式を解きなさい。
(1) $\frac{1}{7}x = 2$ (2) $8x = -16$

問3 次の方程式を解きなさい。
(1) $\frac{x}{2} = -5$ (2) $-3x = 12$ (3) $-\frac{x}{4} = -6$

▲p.116

2 小学校算数の学び直しによって、学びがつながる！

「学びのマップ」を巻末に用意し、算数の内容をいつでも振り返ることができるようにしています。また、**まなびリンク**で、算数の教科書で使われているアニメーションや動画を見ることができます。

そのほか、巻末の「小学校算数 計算のふり返し」で、算数で学習した計算を振り返ることもできます。

算数の内容とのつながりがひと目でわかる！

学びのマップ

算数のコンテンツ合計83本！

▲p.288 ~ 289

3 つまずきのポイントが丁寧に扱われているから、学力が定着する！

各種学力調査でつまずきがみられる内容については、誤答例などを示して、どこが間違っているのかを考えさせる問題を設けています。

つまずきをクローズアップ！

問1 周の長さが18cmの長方形の縦の長さを x cm、横の長さを y cm とするとき、 x と y の関係について、ななみさんは次のように考えています。

x の値が増加すると、 y の値が減少するから、 y は x に反比例する。

ななみさんの考えは正しいですか。その理由も説明しなさい。

▲p.157

2 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
みんなで数学をはじめよう！	・数学の学習を進めるにあたって、数学的活動の楽しさや数学のよさに触れることで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度や、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養えるように配慮しました。(第1号、第3号)	p.4～5
工夫してノートを書こう	・自分なりに工夫してノートをつくることを促し、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造力を培い、自主及び自律の精神を養えるように配慮しました。(第2号)	p.10、68～69
学びのプロセスページ	・問題発見・解決する活動を通して、自立的・協働的な学びを行い、自他を尊重する態度を養えるようにしました。(第3号)	p.61～62、97～98、 125～126、164～165、 192～193
数学しごと人	・仕事で数学を活用している人を紹介し、幅広い知識と教養を身に付けるとともに、数学と職業との関係を知り、職業観が培われるようにしました。(第2号、第3号)	p.70～71、106～107、 278～279
1章 整数の見方	・素数ゼミの話題を取り上げ、数学と自然界との関連に興味・関心を持てるようにしました。(第1号、第4号)	p.13、22
2章 正の数、負の数	・インターネットを使って国際交流する教材を取り上げ、国際社会に対する意識を高めるとともに、他国を尊重する態度を養えるようにしました。(第5号)	p.66
3章 文字と式	・校庭に菜園をつくる場面を取り上げ、数学と日常生活との関連を実感するとともに、環境の保全への意識が高まるようにしました。(第2号、第4号) ・塵劫記に書かれている「薬師算」を取り上げ、我が国の伝統や文化に興味・関心を持てるようにしました。(第5号)	p.97～98 p.99
4章 方程式	・方程式に関連する他国の数学書を取り上げ、数学が国境を越えて発展してきたことや、他国が我が国に与えた影響を知ること、他国を尊重する態度を養えるようにしました。(第5号) ・フード・マイレージに関連する教材を取り上げ、数学と実社会との関連を実感するとともに、環境の保全への意識が高まるようにしました。(第2号、第4号)	p.121 p.109、136
5章 比例と反比例	・ペットボトルのキャップを集めてリサイクルする活動の場面を取り上げ、数学と日常生活との関連を実感するとともに、環境の保全への意識が高まるようにしました。(第2号、第4号) ・地震によって発生するP波とS波に関する教材を取り上げ、防災に対する意識が高まるようにしました。(第4号)	p.164～165 p.171
6章 平面図形	・日本の伝統模様である「麻の葉」、「矢絰」、「青海波」などを取り上げ、我が国の伝統や文化に興味・関心を持てるようにしました。(第5号)	p.175、195、207、212
7章 空間図形	・身のまわりの形を立体とみなす活動を通して、数学と日常生活の関連を実感できるようにしました。(第2号)	p.214～215
8章 データの分析	・スポーツのデータ・アナリストを取り上げ、数学と実社会との関連を実感するとともに、社会の形成に参画しようとする態度を養えるようにしました。(第2号、第3号) ・データを収集する際の配慮やモラルについて注意喚起し、道徳心を培えるように配慮しました。(第1号)	p.249 p.268
巻末	・円周率 π の歴史を取り上げ、日本人を含めた過去の偉人の功績を知ること、幅広い知識と教養を身に付けることができるようにしました。(第1号、第5号)	p.282～283

3 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

○ESD・SDGsへの取り組み

- ・現代社会が抱える環境や貧困、人権や平和などのさまざまな問題について、生徒一人一人が自ら課題を発見し、思考し、持続可能な社会の形成に積極的に関わっていく態度が育つように、ESD・SDGs教育の専門家による協力のもと、教材の場面設定などを工夫しました。

○人権教育・特別支援教育

- ・社会の多様性を踏まえ、人権を尊重し、あらゆる差別をなくすために、人権教育の専門家による協力のもと、教科書内の表現に配慮しました。
- ・特別支援教育の専門家の監修のもと、レイアウトや文章の改行位置などを工夫し、支障なく生徒が集中して学べるように配慮しました。
- ・色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しました。
- ・紙面でもデジタル画面でも、見やすく、読みやすいユニバーサルデザインフォントを使用しました。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
105-30	中学校	数学	数学	第1学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
17 教出	数学 017-72	中学数学 1		

1 編修上特に意を用いた点や特色

全288か所
(1年生用125か所)
当社ウェブサイトへ
アクセス!



1 デジタルコンテンツ「まなびリンク」で、 “もっとわかる・できる・納得する”を支援する!

シミュレーション

操作や観察を取り入れたコンテンツを用意しています。

正多面体は、次の5種類しかないことが知られている。

正四面体 正六面体(立方体) 正八面体 正十二面体 正二十面体

問5 正多面体の面、頂点、辺について、下の表にまとめなさい。
また、下の表から、正多面体の面の数、頂点の数、辺の数について、どんな関係があるといえるでしょうか。

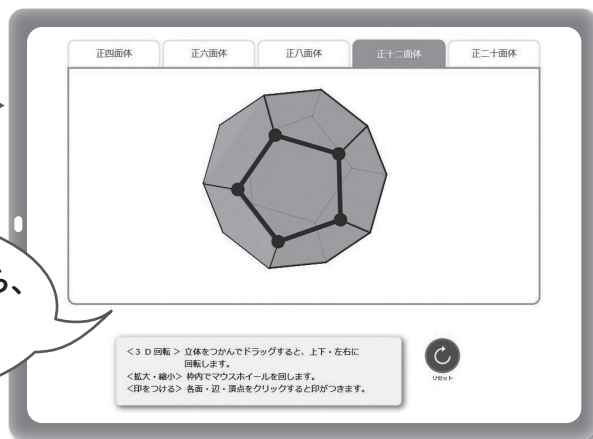
	面の形	1つの頂点に集まる面の数	面の数	頂点の数	辺の数
正四面体	正三角形	3	4		
正六面体					
正八面体					
正十二面体				20	
正二十面体					30



リンク

試行錯誤できるから、
発見的な学習を
行いやすくなる!

◀p.218



アニメーション・映像

動的な表現や立体的な表現を見ることで理解が深まる内容には、アニメーションや映像を用意しています。繰り返し見て、確認することができます。

▶p.166

Q 公園に走るのは何分後かな?

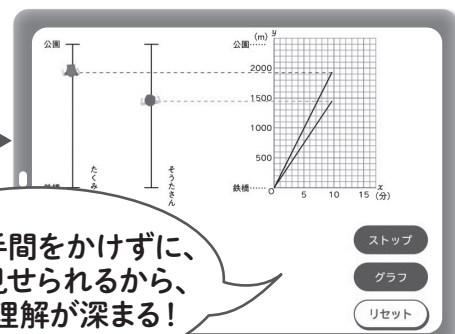
たくみさんとそうたさんは、河川敷のジョギングコースで、鉄橋から公園までの2400mをそれぞれ一定の速さで走りました。右の図は、出発してからx分後の鉄橋からの道のりをy(m)として、2人の走ったようすについて、xの変域が0 ≤ x ≤ 8の部分だけグラフに表したものです。

(1) x=8についても、2人の進むようすを表すグラフをかき入れてみましょう。

(2) 2人が公園に着くのは、出発してからそれぞれ何分後か求めてみましょう。

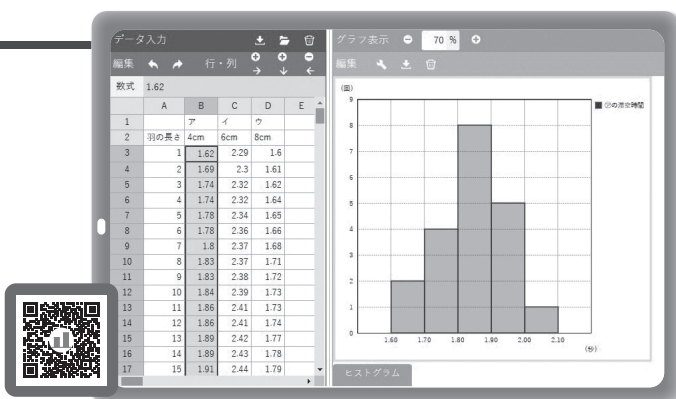
リンク

授業で手間をかけずに、
動きを見せられるから、
生徒の理解が深まる!



統計ツール

統計ツールと学習に必要なデータを用意しているので、ヒストグラムや度数折れ線などを簡単に作成することができます。グラフ作成の作業を効率化することで、データの傾向を読みとったり説明したりする活動に時間を割くことができます。



▶p.253からリンク

2

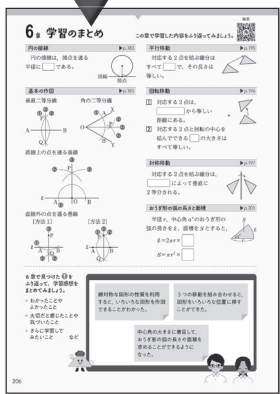
章の学習を“個別最適な学び”で深める！

学習のまとめ → 章の問題

各章の終わりを「学習のまとめ」→「章の問題」という形にし、さらに「章の問題」を「たしかめよう」→「力をのばそう」→「学んだことを活用しよう」という構成にしています。「学習のまとめ」と「たしかめよう」で基礎・基本を確認し、「力をのばそう」や「学んだことを活用しよう」で、さらに学習を深めることができます。

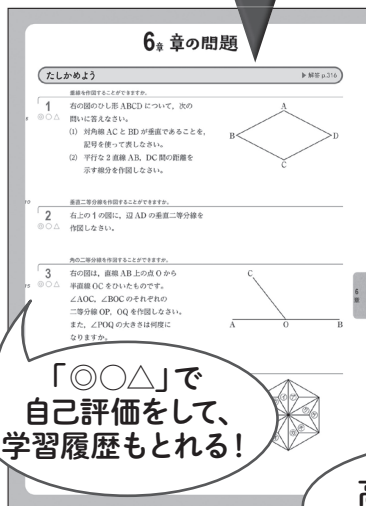
また、「章の問題」では、**まなびリンク**でサポート（解決の手立て）を用意したり、**公立高校の入学試験問題**を一部掲載したりするなど、様々な工夫をしているので、**個別最適な学び**として利用できます。

学習のまとめ



▲p.206

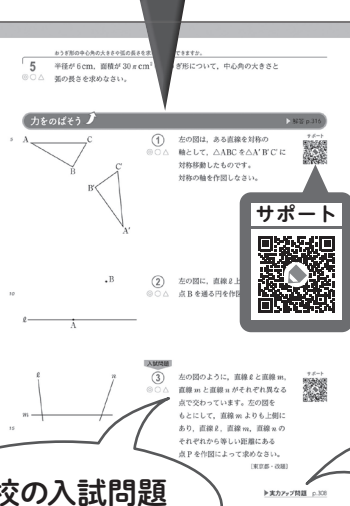
たしかめよう



「○○△」で自己評価をして、学習履歴もとれる！

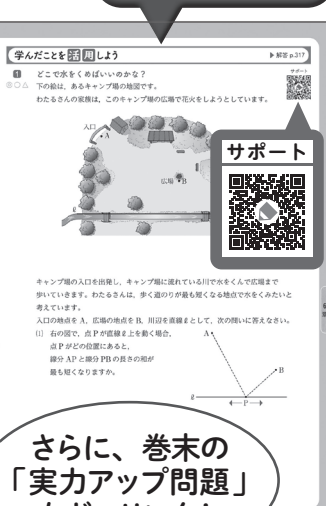
▲p.207 ~ 209

力をのばそう



高校の入試問題にも挑戦できる！

学んだことを活用しよう



さらに、巻末の「実力アップ問題」などへリンク！

3

デジタルも活用しながら“協働的な学び”で、よりよい学びを生み出す！

協働的な学びの場面

協働的な学びの場面として、各章の始まりには導入課題「Let's Try」、活用の場面には「学びのプロセス」などを設けています。生徒の生活に身近な題材で、対話的な学びを実現し、よりよい学びを生み出します。

Let's Try

何人参加していたのかな？

皆さんの生活に近い題材で、毎週、小中学生を対象に「ものづくり体験教室」が開かれています。体験教室では、参加者におやつを配ることに決まっています。今年、皆さんはどのくらいおやつを配るのでしょうか？

1人につきおやつ2個配ったとすると、お菓子が12個配られました。

Q1

りくさんは、次のように、まず配ったお菓子の個数を求めて、その個数から体験教室の参加者の人数を求めようとしています。

お菓子の個数の合計は12個で、お菓子の個数は12個から、配ったお菓子の個数を引けばいい。

りくさんの考え方で、体験教室の参加者の人数を求めてみましょう。

Q2

はるめさんは、次のように考えています。

100 - 101 = -1 個、つまり、お菓子の個数は1個足りません。

お菓子の個数の合計は12個で、お菓子の個数は12個から、配ったお菓子の個数を引けばいい。

体験教室の参加者の人数を求めようとして、はるめさんの考え方で、お菓子の個数の関係を等式で表してみましょう。

いろいろな考え方を伝え合う！

▲p.110 ~ 111

学習者用端末の利用イメージ

協働的な学びで学習を深めてほしい場面には、適宜、学習者用端末や電子黒板を利用して、多様な考えを比較しながら学び合う学習活動をイメージした紙面を掲載しています。

「まなびリンク」のほかに、いろいろな場面で学習者用端末を使うことができます。

学習者用端末の使い方

▲p.11

考えを知る、伝える

発表する

2章で見つけた⑤をふり返って、学習感想をまとめてみましょう。

- わかったことやよかったこと
- 大切だと感じたことや気づいたこと
- さらに学習してみたいこと

負の符号を使うことで、0より小さい数を考えることができるようになった。

負の数や絶対値などに着目して、正の数、負の数の計算のしかたを見いだすことができました。

負の数を学習したので、小学校ではできなかった3-5のような減法ができるようになった。

正の数、負の数を使うことで、平均を効率よく求めることができました。

▲p.63

検討の観点と内容の特色



観 点	内容の特色	該当箇所
教育基本法、学習指導要領の遵守	▶ 教育基本法が掲げる教育の目的及び目標を踏まえ、「問いをもって、学び続ける子ども」の育成を目指して編修しました。 ▶ 学習指導要領に則り、その目標がよりよく実現されるように創意・工夫をしました。	全般 全般
主体的・対話的で深い学びの実現	▶ 問いをもって学習を進められるように、本文を「❶(学習過程で生じる生徒の疑問) → ❷(学習してわかったこと、解決のしかた) → ❸(新たな疑問)」の形にして、主体的・対話的で深い学びを実現できるようにしました。	全般
基礎的・基本的な知識・技能の習得	▶ 各章の入口には【〇章を学習する前に】、出口には【学習のまとめ】を設けて、基礎・基本が確認できるようにしました。 ▶ 本文の【例(例題)】と【問】の間に、スモールステップとなる【たしかめ】を設けて、基礎・基本が確実に習得できるようにしました。 ▶ 巻末に【補充問題】を用意し、【たしかめ】や【問】の類題に繰り返し取り組めるようにしました。 ▶ 各種学力調査で課題が見られる内容には、意図的につまずきにフォーカスし、誤答例などを示して誤りを正す問題を設けました。	p.22、63等 p.27等 p.297～311 p.41、57、157、234等
思考力・判断力・表現力の育成	▶ 巻頭【大切にしたい数学的な見方・考え方】で、数学的な見方・考え方を既習の具体例をもとに紹介し、見方・考え方を意識づけて、これから始まる学習の中で見方・考え方を働かせることができるようにしました。 ▶ 本文では、数学的な見方・考え方を働かせたい箇所に【羅針盤マーク②】を付けて、見方・考え方を意識できるようにしました。 ▶ 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、ほぼすべての章に【学びのプロセスページ】を設けて問題解決型の授業ができるようにし、思考力・判断力・表現力を伸ばせるようにしました。また、事実・方法・理由などを説明する場面も数多く設けました。 ▶ 章末に【学んだことを活用しよう】(章の問題)、巻末に【学んだことを活用しよう+】を設けて、知識・技能を活用する問題に数多く取り組めるようにしました。	p.6～9 p.31、36等 p.61～62等 p.66、284～286等
学びに向かう力、人間性等の涵養	▶ 【章とびら】では、実社会や生活、先端テクノロジーなどに関する話題を取り上げ、数学の有用性を感じられるようにしました。 ▶ 【数学しごと人】では、仕事に数学を活用している人へのインタビュー内容を掲載し、数学が実社会で役立っていることを実感するとともに、将来の職業を考えるきっかけとなるようにしました。 ▶ 章末【学習のまとめ】では、学習感想を書かせる場面を設け、学習を振り返って評価・改善しようとする態度を養えるようにしました。	p.13等 p.70～71、106～107、278～279 p.63等
ICT の活用	▶ ICT が効果的に活用できる場面にデジタルコンテンツ【まなびリンク】を用意し、二次元コードから即時にアクセスできるようにしました。【まなびリンク】には、動的・立体的な表現や実験映像などを見ることができるアニメーションや映像、試行錯誤的な操作が可能なシミュレーションなどを豊富に設けました。また、【章の問題】の一部には、学力に不安のある生徒でも自学自習できるように、サポート(解決の手立て)も用意しました。 ▶ 「学習者用デジタル教科書」、「学習者用デジタル教科書+デジタル教材」、「指導者用デジタル教科書(教材)」を発行する予定です。	
言語活動の充実	▶ 自分の考えを説明したり、友だちと伝え合ったりする活動を充実させるとともに、それらの活動へと広げられる場面には、「みんなに説明しよう」「話し合ってみよう」などのマークを付けて強調しました。	p.35、62等

観 点	内容の特色	該当箇所
小・中の連携	▶ 本文を ㊟(はてな) → ㊤(なるほど) → ㊤㊟(だったら) で学びを進める形にし、小・中の指導方法の連携を図りました。 ▶ 【もくじ】では、小学校の既習内容との関連がわかるようにしました。 ▶ 小・中の滑らかな接続に配慮し、【○章を学習する前に】や本文の【もどって確認】などで、適宜、小学校の既習内容を振り返ることができるようにしました。 ▶ 巻末【学びのマップ】では、小学校で学習した主な内容を掲載するとともに、中学校の学習との系統性についても示しました。	全般 前見返し④、p.1 p.22、29等 p.288～296
他教科等との関連	▶ 時差、ドレッシング作り、地震による P 波と S 波などを題材として取り上げ、教科横断的に取り組めるようにしました。 ▶ アルファベットを取り上げ、数学で使うときに注意すべきことを示しました。また、【さくいん】では英語の表記を併記し、数学の国際性を感じられるようにしました。 ▶ 道徳科との関連を図り、多様な考えを伝え合い、お互いのよさを認め合う心が育つようにしました。	p.66、130、171 等 p.72、326～327 p.61～62等
個に応じた学習、 少人数指導	▶ 章末【章の問題】を【たしかめよう】→【力をのばそう】→【学んだことを活用しよう】という構成にし、習熟度に応じて取り組めるようにしました。また、【力をのばそう】と【学んだことを活用しよう】には、学力に不安のある生徒でも取り組めるように【まなびリンク】でサポート（解決の手立て）を用意しました。さらに、【力をのばそう】の一部には公立高校の入試問題を掲載し、やや難しい問題にも挑戦できるようにしました。	p.64～66等
現代的な諸課題への 対応	▶ 専門家による協力のもと、ESD・SDGs 教育に配慮した教材を設けました。 ▶ 暗号化技術、ビッグデータなどの先端科学技術を紹介し、情報化社会における数学の有用性を感じられるようにしました。 ▶ 外国にルーツをもつ生徒のキャラクターを教科書内に登場させて、多様性のある社会を大切にする態度を養えるようにしました。	p.136等 p.341等 全般
特別支援教育・ユニバーサルデザインへの配慮	▶ 専門家の監修のもと、すべての生徒が支障なく学習できるように、読みやすい改行や、余白を生かしたレイアウトなど、落ち着いて学べる紙面づくりに配慮しました。また、デジタル教科書や拡大教科書を用意し、多様なニーズに対応できるようにします。 ▶ 色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しました。 ▶ UD フォントを多くの箇所で使用し、視認性を高めました。	全般 全般 全般
表記・表現	▶ 文章は平易で簡潔、かつ理解しやすいように配慮しました。 ▶ 教材選定や場面の表現では、言葉遣いや服の色など、固定的なイメージで性の区別をしないようにするなど、専門家による協力のもと、多様性や人権について十分に配慮しました。	全般 全般
配列・分量	▶ 系統性や習熟期間などを考慮し、最適な学習効果が得られるように単元配列を工夫しました。 ▶ 基礎・基本の内容と選択的な内容を分け、標準時数の中で無理なく習得することができるようにするとともに、家庭学習などを想定して定着のために必要な分量の問題を用意しました。	全般 全般
印刷・造本	▶ 紙の強度を維持しつつ、軽量の紙を使用することで生徒の身体的な負担に配慮しました。 ▶ 環境やアレルギーなどに配慮し、再生紙と植物油インキを使用しました。また、表紙には抗菌加工をしました。	全般 全般
創意・工夫	▶ 主体的な学びのきっかけをつくる導入課題や、ねらいにせまる発問、対話的な学びを促す発問などがわかりやすくなるように工夫しました。 ▶ 「数学好きを増やす」観点から、自ら考えたり、友だちと学んだりする楽しさを味わえるように工夫しました。また、生徒の興味・関心を高める教材を豊富に用意しました。	全般 全般

2 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
1章 整数の見方 Let's Try 1節 整数の見方	A(1)、内容の取扱い(1) A(1)、内容の取扱い(1)	p.13~21 p.14~15 p.16~20	3
2章 正の数、負の数 Let's Try 1節 正の数、負の数 2節 加法と減法 3節 乗法と除法 4節 正の数、負の数の利用	A(1) A(1) ア(ア) A(1) ア(イ)、イ(ア) A(1) ア(イ)、イ(ア)、内容の取扱い(2) A(1) ア(ウ)、イ(イ)	p.23~66 p.24~25 p.26~33 p.34~45 p.46~60 p.61~62	24
3章 文字と式 Let's Try 1節 文字を使った式 2節 文字を使った式の計算 3節 文字を使った式の利用 4節 数量の関係を表す式	A(2) A(2) ア(ア)、ア(イ) A(2) ア(イ)、ア(ウ)、イ(ア) A(2) ア(エ) A(2) ア(エ)、内容の取扱い(3)	p.73~105 p.74~75 p.76~87 p.88~96 p.97~99 p.100~101	18
4章 方程式 Let's Try 1節 方程式とその解き方 2節 方程式の利用	A(3) A(3) ア(ア)、ア(イ)、イ(ア) A(3) イ(イ)、内容の取扱い(4)	p.109~136 p.110~111 p.112~122 p.123~132	15
5章 比例と反比例 Let's Try 1節 関数 2節 比例 3節 反比例 4節 比例と反比例の利用	C(1) C(1) ア(ア) C(1) ア(イ)、ア(ウ)、ア(エ)、イ(ア) C(1) ア(イ)、ア(エ)、イ(ア) C(1) イ(イ)	p.139~171 p.140~141 p.142~144 p.145~155 p.156~163 p.164~167	19
6章 平面図形 Let's Try 1節 点と直線、円 2節 作図 3節 図形の移動 4節 円とおうぎ形の計量	B(1) B(1)、内容の取扱い(5) B(1) ア(ア)、イ(ア)、イ(ウ) B(1) ア(イ)、イ(イ)、イ(ウ) B(2) ア(イ)	p.175~209 p.176~177 p.178~184 p.185~194 p.195~199 p.200~205	17
7章 空間図形 Let's Try 1節 立体と空間図形 2節 立体の体積と表面積	B(2) B(2) ア(ア)、イ(ア)、内容の取扱い(6) B(2) ア(イ)、イ(イ)	p.213~247 p.214~215 p.216~235 p.236~243	17
8章 データの分析 Let's Try 1節 データの整理と分析 2節 データにもとづく確率	D(1) D(1) ア(ア)、ア(イ)、イ(ア) D(2) ア(ア)、イ(ア)	p.249~277 p.250~251 p.252~271 p.272~274	13
(予備時数 14時間)			計 126

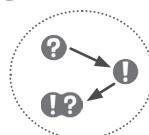
教科書の構成

巻頭

- ・みんなで数学をはじめよう!
- ・大切にしたい
数学的な見方・考え方
- ・工夫してノートを書こう
- ・まなびリンクを使って学ぼう

章の学習

- ・○章を学習する前に
- ・Let's Try
- ・Q→例(例題)
→たしかめ→問
- ・学びのプロセスページ
- ・基本の問題
- ・学習のまとめ／章の問題



巻末

- ・数学の広場+
- ・学んだことを活用しよう+
- ・小学校算数 計算のふり返し
- ・学びのマップ
- ・補充問題／実力アップ問題
- ・解答
- ・さくいん

編修趣意書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学校	教科	種目	学年
105-30	中学校	数学	数学	第1学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
17 教出	数学 017-72	中学数学 1		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容や内容の取扱いに示す事項	ページ数
89	同類項	1	A(2) アウ) 簡単な一次式の加法と減法の計算をすること。 上記に関連して、文字を使った式の計算をより深く理解する。	0.25
99	薬師算	1	A(2) アエ) 数量の関係や法則などを文字を用いた式に表すことができることを理解し、式を用いて表したり読み取ったりすること。 上記に関連して、文字を使った式を用いた表し方や読み取り方をより深く理解する。	0.5
108	累乗どうしの乗法	1	A(2) アイ) 文字を用いた式における乗法と除法の表し方を知ること。 上記に関連して、文字を使った式の乗法の表し方をより深く理解する。	0.5
210～211	三角形の外心と内心	1	B(1) アア) 角の二等分線、線分の垂直二等分線、垂線などの基本的な作図の方法を理解すること。 B(1) イア) 図形の性質に着目し、基本的な作図の方法を考察し表現すること。 上記に関連して、基本的な作図をもとにして三角形と円の関係を調べる活動を通し、平面図形の性質をより深く理解する。	2
合 計				3.25

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容